

つながる  よこはま

✦ 2021年6月号 ✦

にほんごコミュニケーション

よこはま日本語学習支援センター ～横浜 × 日本語 × 多文化共生～

横浜で暮らす外国人トークリレー

第5回：朴美真（パク・ミジン）さん

NEW! 連載記事

日本語コミュニケーション～つなげよう、ひろげよう～

第1回：「日本文化」を通して、つながる

鶴見国際交流ラウンジ交流部会



特集

日本語教室 活動継続のための工夫と試み
～変動の2020年度を振り返る～



2021年度第1号（通算5号）

編集・発行 よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）



〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

発行年月日 2021年6月5日

横浜市委託事業／文化庁令和3年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



外国人のみなさんに、生活の中での日本語との関わりについて話していただくコーナーです。

横浜市には、外国人の生活をサポートする機関がたくさんありますが、その中で、支援者として積極的に活動している外国人の姿も少なくありません。

今回は、NPO法人国際交流ハーティ港南台^{*}で活躍中の、パクさんにお話をうかがいました。(聞き手：H)

横浜で暮らす外国人 トークリレー

第5回



日本に来た理由を教えてください

13年前、主人の仕事で日本に来ました。平仮名をすっかり勉強して来日したので、「日本語はもう大丈夫ー」だと思っていましたが、街にあふれていた情報は、漢字やカタカナばかり。駅名もローマ字だけでは読めないものも。これは大変だと思い、急いで日本語の勉強を始めました。

どのように日本語を勉強してきましたか？

同じ団地内に住んでいる韓国人に、「日本語が勉強できる教室があるよ」と誘われ行ったところが、ハーティ港南台でした。日本語教室と聞き堅苦しいイメージがあったのですが、実際はすごくアットホームで、日本語の勉強方法も希望に合わせて形で対応してくれました。また、外国人と

日本人が対等に交流できるような雰囲気があり、イベントの企画などについても意見を聞いてくれ、とても嬉しかったです。3年ほど通い日本語も上達したところ、今度はハーティ港南台や学習者の力になりたいと思うようになり、スタッフの一員として活動をするようになりました。

ハーティ港南台では、どのような活動をしていますか？

はじめは交流スタッフとして活動していましたが、数年前からは組織運営に携わる立場となりました。学習者への支援だけでなく、学習者を支援者側に誘う活動も積極的に行っています。

しかし無償で行うボランティアは、自発的な意思がないと継続していくことは難しいものです。また、日本語力に自信がないからと諦めてしまう人もたくさん

います。私自身も、仕事とボランティアの両立は大変だと感じるときもありますが、どこかで自分の背中を見て「やってみよう！」と思う人がいるかもしれない、という気持ちで活動しています。運営側に立って7年目。その間に、3人の外国人が理事に就任しました。日本人スタッフとともに、より良い支援の形を模索し日々奮闘中です。

日本語学習における、より良い支援の形とは？

学習者側の要望をしっかりと吸い上げ、その人が求める形できっちり対応していく仕組みづくりや、日本語学習での失敗経験を持つ先輩学習者が、支援者側となりサポートするような環境づくりが、より良い支援につながるかと考えています。また、インプット（知識を身につけること）だけでなく、アウトプット（会話などで使ってみること）まで見据えた活動も必要だと思えます。会話を単なる「おしゃべり」と捉える人もいますが、それは違うと思います。日本語が母語でない私たちにとって、ジェスチャー、表現、表情全てを勉強する良い機会なのです。

今後目指すことについて教えてください

来日前はボランティア活動に接する機会がなかったため、日本でボランティアの方たちと出会ったときは、「こんなに親切な人たちがいるなんて！」と衝撃を受けたものです。そしていつか、助けてもらった分を誰かに返そうと思うようになり、今の活動に結び付いています。

今後もハーティ港南台での活動を通して、この善意のバトンをいろんな方につないでいきたいと思っています。



Profile

パク ミジン
朴 美眞さん (韓国)
日本在住歴：13年

NPO法人国際交流ハーティ港南台（以下、ハーティ港南台）で、理事兼副会長として活動しているパクミジンさん。ボランティア活動をしながら、外国籍人材に特化した人材紹介会社で、外国人の継続雇用をサポートする仕事をしています。

^{*}NPO法人国際交流ハーティ港南台：国際協力、国際相互理解を図ることを目的とし、約30年前に設立。交流活動、日本語クラスの開催のほか、生活情報や医療情報の提供を行っている。キッズケア（子どもの保育）を行っているのも特長。

日本語コミュニケーション

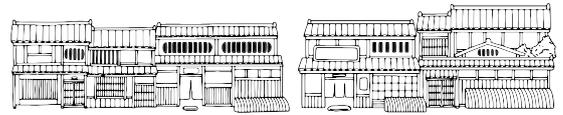
～つなげよう、ひろげよう～

第1回

「日本文化」を通して、つながる

鶴見国際交流ラウンジ交流部会

外国人と日本人が、より良いコミュニケーションでつながり、ひろがるための取組み・工夫のヒント集！



鶴見国際交流ラウンジ交流部会では、在日外国人と日本人とのつながりを探し、さまざまな交流プログラムを実施してきました。2020年秋には、日本の食文化の代表ともいえる「日本酒」の奥深さを、各国の人々と共に知る機会をつくりました。



レポーター：日高嘉恵さん（鶴見国際交流ラウンジ交流部会コーディネーター）

「運営者と参加者共に活動を“楽しむ”ことを大切にしています。」

鶴見国際交流ラウンジ交流部会
～文化の相互理解を目指して～

鶴見国際交流ラウンジには4つの部会（交流部会・日本語部会・学習支援部会・情報部会）があり、各部会のコーディネーターがボランティアと共に事業の企画・運営を行っています。交流部会では、外国人と日本人がともに参加できるイベントを、年に6回ほど開催しています。

イベントを決定するにあたっては、毎月定例会を行い、テーマや内容を話し合います。「多文化の街・鶴見」の特長を活かせるよう、さまざまな国の文化をテーマにし、「文化の相互理解」を目標としています。今年はベトナムの方がメンバーに加わったので、さらにバラエティ豊かな活動ができると思っています。

日本語で深まる文化理解
～酒蔵ツアーを開催して～

2020年10月11日、コロナ禍の中でも交流できる場を設けたいという思いから、小田急新松田駅までの小さな旅「酒蔵を訪ねる」を開催しました。神奈川県丹沢のふもとで、日本古来の製法を守り酒を醸造している蔵元「川西屋酒造店」にご協力いただき、酒造の設備や日本酒の製造工程の見学をしました。参加者は総勢16名で、ペルー、ボリビア、ブラジル、ベトナムの方が参加しました。

酒の酵母を守るため、参加の前日より納豆、ヨーグルト食は禁止。日本人スタッフも初めて触れる酵母菌の繊細さに、外国の参加者たちも大変興味深いようでした。蔵人による日本酒にまつわるお話はとても楽しく、見学後は試飲会もありまし

た。日本酒には馴染みのない国の方々も興味深く参加してくれ、日本酒の奥深さを味わいました。

料理好きなベトナムのIさんは「つまみ」に興味を持ち、蔵人による日本酒に合うつまみの話や、鏝節に日本酒を注ぐ飲み方を熱心にメモしていました。また、普段はワインを嗜むというペルーのご夫妻は、「晩酌」という日本のことばと習慣に興味を持ち、日本の生活習慣をもっと知りたいと話していました。さらに、日本酒は材料となるコメが大事との話から、アンケートに「田植え」を見てみたいと書いた方もいました。

新たに知る日本語で、新たな日本文化を発見できた今回のイベント。今後も、相互理解を深められるようなイベントを企画していきたいと思っています。



新しい取組みの紹介
～人々や文化を知るためのイベント～

今年度、交流部会では2つの新しい取り組みを企画中です。

多文化の街・鶴見の中での
さまざまな人々との相互理解

昨年度、朝鮮幼稚園と沖縄県人会を訪ねて歴史・文化を学んだことに続き、今年度

は、改正入管法（出入国管理及び難民認定法）により1990年以降に来日した、主に南米出身の方に焦点をあてた企画を考えています。続いて来年度には、近年来日が増加傾向にある中国、フィリピン、ベトナム、ネパール出身の方等に焦点を当てて、ストーリー性のあるプログラムを、3年間継続的に企画していく予定です。

着物を通じた
日本の服飾文化への理解

鶴見区にある着付け教室との共催で、「きものを着ましよう」を毎月一回開催する予定です。きものに触れるチャンスが少ない外国の方たちが、着付け師による着付けを体験できます。金屏風の前での写真撮影も行いたいと思います。夏には浴衣ワークショップも企画中です。

館長よりひとこと

昨年度は、緊急事態宣言の中で始まり、語り人を募り、語り合うことから始める交流部会活動にとっては、それこそ緊急事態となり、イベントをどうするかは大変頭の痛い問題でした。そのような中でもコーディネーター中心に部会メンバーが協力して知恵を絞り、TPO全ての検討・調整等を行ったことで、今回紹介の多彩なイベントが実施出来ました。今年度も、鶴見区の歴史を学びながら各種イベントを催行し、だれもが安心して豊かに生活できる「多文化共生のまちづくり」の一助となることを目指します。（館長・小林貞幸）



ホームページ
TOP「お知らせ」
新着情報

FACEBOOK ページ



交流の情報は開
朗な雰囲気です。
国際交流ラウンジ
見学や試飲会も
ぜひお楽しみを
楽しんでください。



にほんごきょうしつ 活動継続のための工夫と 試み

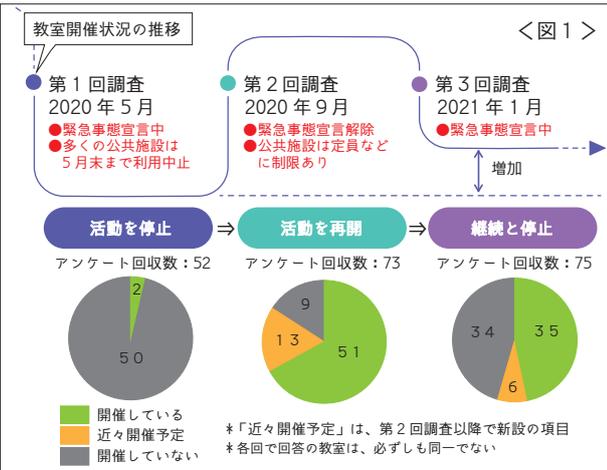
昨年から続くコロナ禍の影響で、地域の日本語・学習支援教室は大きな変化を迫られました。その中で、情報を共有しながらさまざまな工夫を凝らし、学習者に寄り添った支援の形を模索してきたことと思います。YOKEで行ったアンケート調査を基に、その様子を振り返ります。

情勢に左右された2020年度

新型コロナウイルスの流行により発出された緊急事態宣言（2020年4月）で、これまでの生活様式が一変し、多くの教室で活動が難しくなりました。

そのような状況の中、YOKEでは、各教室の状況を把握し教室間で有益な情報を共有できるよう、同年5月に最初のアンケート調査を行いました。長引くコロナ禍の状況に合わせ、全3回の調査となりました。

はじめての事態に戸惑いながらも、新たな取組みに前向きにチャレンジする教室が多く見られ、最終的には、学習支援を継続して行う教室が増加する形となりました（図1）。

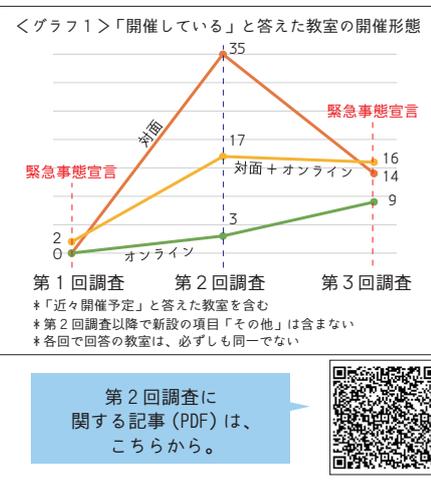


学習支援を行う教室が増加

アンケートで教室を「開催している」「近々開催予定」と答えた教室には、開催形態についても聞き取りを行いました。開催を重ねるごとにオンラインを取り入れる教室が増加し、第3回調査時では、5月の緊急事態宣言時に比べ、対面・オンラインともに、学習支援を継続する教室が増えました（グラフ1）。

一方で、安全面や教室ごとの事情により活動を休止・終了せざるを得ない団体もありました。しかし、このような状況の中でも、昨年一年間に複数の新しい日本語教室が活動を開始し、データベース掲載団体数は年間を通して増加となりました。

なお、第2回調査については、本冊子2020年度11月号で紹介しています。（くわしくは、左記QRコードから見られます）



さまざまな変化を読み解く

各回で寄せられた教室からの声をまとめ、変化を迫られた各教室が学習者にどのように寄り添っていったのか、YOKEな

りに振り返ってみました。

●第1回調査

教室再開に向けた工夫や方法が知りたい!

「他の教室ではどのようにしているか知りたい」という声が多く寄せられました。具体的には、オンライン授業の運営方法や、ネット環境のない学習者へのフォロー方法などです。

また、開催を見合わせている教室でも、学習者と個別に電話、手紙、SNSなどで連絡を取り合っていた教室が複数あり、学習者に寄り添った支援の形を、さまざまな方法で模索している様子がうかがえました。

●第2回調査

不測の事態に備え、準備をしています!

感染状況に左右されない学習環境をつくらうと、オンラインでの活動を準備を進める教室が多く見られ、「オンラインを活用した授業の進め方について研修を受けた」「支援者でオンラインツールの講習会を開いている」などの声が多くありました。また、「新たに定例会を設け、こまめに情報を共有している」という教室もあり、日々の環境変化に対応するための工夫も見られました。また、支援者・学習者双方の意見を慎重に聞き、状況に合わせて柔軟に対応している教室や、学習者にもオンラインツールの講習会を行う教室もありました。

一方で、ボランティア不足のため、学習者の定員を減らしながら活動を継続したり、やむなく活動を休止・終了した教室も複数ありました。長引くコロナ禍で、各教室が変化を迫られた時期でした。

● 第3回調査

経験が活かされた1月5

継続的な学習支援のために、ステップアップ!

初回の調査時は、会場使用の関係などから活動を休止する団体が多かったが、第3回調査ではこれまでのノウハウを活かし、活動を継続する教室が多く見られました。

また、寄せられた声も次なるステップアップへ向かうものが多く、「オンラインで使用できる楽しい教材情報が欲しい」「支援者への研修案が知りたい」「研修会をもっと開催して欲しい」「ボランティアがなかなか見つかり、情報を共有できるような仕組みをつくってほしい」という声がありました。ウィズコロナの時期に入り、「変化」を当たり前のことと捉えた上での仕組みづくりを模索する様子が見えま

また、寄せられた声も次なるステップアップへ向かうものが多く、「オンラインで使用できる楽しい教材情報が欲しい」「支援者への研修案が知りたい」「研修会をもっと開催して欲しい」「ボランティアがなかなか見つかり、情報を共有できるような仕組みをつくってほしい」という声がありました。ウィズコロナの時期に入り、「変化」を当たり前のことと捉えた上での仕組みづくりを模索する様子が見えま

2021年度の活動に向けて

変化を迫られた2020年度は、各教室が学習者・支援者の要望に合わせて柔軟に対応し、試行錯誤しながらも、支援の継続に力を注いだ1年となりました。また、新しいチャレンジや、教室・支援者どうしのつながりも増え、多くの素晴らしい出会いもありました。

Y O K Eでも、支援者向けオンライン講座などの新しい取組みをとおして、皆さまとともに成長できた1年となりました。今後も、教室活動継続支援のための取組みを続けていきます。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。引き続き、よろしくお願いたします。

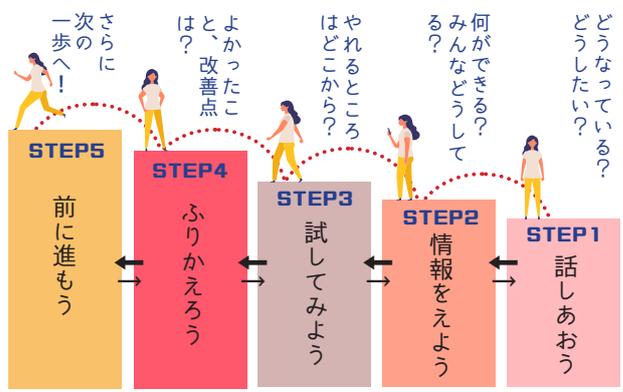
2020年に、新しく日本語教室ができました!

「長引くコロナ禍で行動が制限される中、『外国人家族が日本人と関わる機会をつくってほしい』との声を受け、学習者たちの息抜きの場となればと思い、外国人が多く住む地域で新しい教室を立ち上げました。不安定な情勢の中、支援者どうしで都度話し合いながら、開催するかどうかを決めています。最も大切にしていることは、教室を必要としている学習者に寄り添う気持ちです。学習者・支援者としてしっかり向き合いながら、活動を続ける努力をしています。」

(サロン・デ・シャルラス 代表 村上直子さん)
*教室の情報は、本冊子P.5で紹介しています

アンケートから学んだ、活動継続を支える5つの行動

困ったとき、どうしよう! ~仲間と一緒に、前向きに~



2020年度報告

地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業(2年目)が終了しました!

2020年度は、3本の柱、7つの取組(うち5つの重点取組)で事業を実施しました。コロナ禍による活動の制約もありましたが、オンラインでの活動など成果が生まれた一年でした。

2年目となる2020年度は、2019年度に策定したアクションプランにおける「横浜×日本語×多文化共生」の理念と、日本語学習支援と、多文化共生の推進を進めました。

柱1 体制づくり推進のための基盤の整備(取組1・2・3)

地域における地域日本語教育推進のための基盤を整備しました。拠点となるよこはま日本語学習支援センターを設置し、また、有識者会議「横浜市地域日本語教育総合調整会議」では、事業内容についての検討・協議や、各分野における地域日本語教育に係る情報・意見交換、事業の振り返りや今後の方向性についての協議を行いました。



柱2 地域における地域日本語教育の推進、連携(取組3・4)

情報冊子の発行、ホームページの制作、日本語・学習支援教室データベース(横

浜)のリニューアルなど、よこはま日本語学習支援センターの各事業を中心に、地域日本語教育を推進しました。「地域日本語シンポジウム・まちの日本語プラットフォーム」では、外国出身者からの大変興味深い発信もあり、日本語学習や日本人・外国人のコミュニケーションに関わるさまざまな事例が紹介されました。

柱3 研修・地域日本語教育・支援(取組5・6・7)

外国人も含めた日本語学習支援者向け研修、企業と連携した日本語教室開催やICTを進める講座など、新たなニーズに対応するプログラム展開を試みました。「ようこそにはんご@みどりく」では、モデル地域(緑区)の取組みとして、外国人の多い地域で全6回の教室を行いました。講師・アシスタントに3名の外国出身者を迎え、他の日本語教室とのオンライン交流会も盛り込み、日本語を使って交流する楽しさを感じられる機会をつくりました。

今年度も、人々とのつながりを大切にした取組を行っていききたいと思います。

取組内容および事業報告は、よこはま日本語学習支援センターホームページで公開しています。くわしくはこちらをご覧ください。
(<https://yokohama-nihongo.com/>)
taipei.dukur/taipei.dukur1-2020)



日本語を勉強する…「どこで?」「どうやって?」

日本語の勉強、お役立ち情報 Vol. 5

オンライン
学習サイト

オンラインで日本語が勉強できるサイト

インターネットの環境があれば、家でも日本語の勉強ができます。
全て無料の日本語学習サイトです。



つながるひろがる にほんごでのくらし

日本で生活する外国人のための、日本語学習サイト。
新しいことば(4言語)と場面が増えました!

インドネシア語、フィリピン語、ネパール語、クメール語(カンボジア語)でも勉強できるようになりました。動画を中心に、あいさつ、買い物、レストランでの食事など、さまざまな生活の場面で使える日本語を、いつでもどこでも学ぶことができます。

出典 文化庁
Source: Japanese Language Division, Agency for Cultural Affairs

日本語 / English / 簡体中文 / español / português / tiếng Việt

NEW! Indonesia/Filipino/ネपाल/ ខ្មែរ



シチュエーションやレベルに合わせて学習できる!



日本語教室

横浜市にある、日本語が勉強できる教室

横浜市には、「地域の日本語教室」がたくさんあります。
その中から、2つの教室を紹介します。

その他の日本語教室は、
ここから探すことができますよ!



<http://www.yokeweb.jp>

南区 あい・にほんごクラブ



レベルごとに、4つのクラスに分かれています。
小人数制です!

場所: みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
市営地下鉄 阪東橋駅徒歩5分
ラウンジTEL: 045-232-9544

申込み: メール (ko_noda0072@yahoo.co.jp)、または電話 (080-3017-4543) で問い合わせください。オンラインレッスンも開催しています。

※対面・オンラインともに、毎週日曜日 13:30-15:00

毎週日曜日の午後、地域に暮らす外国人にルーツを持つ方に、日本語を教えています。日本語に慣れるとともに、日本の文化、生活、習慣を知ってもらい、共に生活できることを目指しています。

青葉区 サロン・テ・チャルラス



QRコードを読み取り、「チャルラス」で検索してください!

場所: クラスにより異なります。
①あざみ野クラス/山内地区センター 東急線 あざみ野駅 徒歩3分
②奈良クラス/奈良北団地集会所 青葉台から東急バス青118系統「奈良地区センター前」バス停
申込み: メールまたは電話で、いつでも問い合わせください。

090-8347-4189
mnaonao@docomo.ne.jp (村上)
mtk98@k07.itscom.net (桑畑)

「にほんごクラス」が2つあります。日本語だけではなく、生活のサポートもしています。こまったこと、心配なことがあったら、何でも相談してください。「親子でおしゃべり」はコロナのためお休みしています。

横浜市内の国際交流ラウンジ紹介コーナー

3月7日 NEW OPEN!

みどり国際交流ラウンジ Midori International Lounge

みどり国際交流ラウンジでできること

日本語学習のサポート
子どもの学習支援教室
生活などの相談
通訳ボランティアの派遣
多文化交流

緑区にある日本語教室は?

8つの教室があります!
(2021年4月現在)
親子で参加できる教室も。
くわしい情報は、ラウンジに聞いてください。

緑区って、どんなところなの?

緑あふれる住みよい街
都心・横浜などへのアクセス◎
大きな公園がたくさん!
(四季の森公園、新治市民の森公園など)

ラウンジのホームページはこちら!



〒226-0019
横浜市緑区中山1丁目6-15
パームビュービル5階・6階
TEL: 045-532-3548
info@midori-lounge.com



09:30-18:00 (水曜日 09:30-21:00)
休み: 火曜日・年末年始

*このコーナーでは、国際交流ラウンジの情報を掲載していく予定です。掲載ご希望の場合は、YOKEまでお問合せください。

ていじやうがいこくじんめい
定住外国人向け

しごとのための 日本語

Japanese Language
for Work



しごとに必要な日本語って？

にほんご
しごとのための日本語

Training Course for Promoting Stable Employment of Foreign Residents
一般財団法人 日本国際協力センター / Japan International Cooperation Center (JICE)

厚生労働省委託

にほんご しごと ひと しごと ひつよう にほんご べんきやう
日本で仕事をしたい人が、仕事に必要な日本語が勉強できる
「しごとのための日本語 定住外国人就職支援コース」。

このコースでは、会社での話しかたや、日本の法律、仕事を
探するための履歴書の書きかたなども勉強します。

- ◎ 日本語の力をつけて、日本で長く働きたい人が勉強できます。
- ◎ 仕事の場面でのコミュニケーションスキルなどを身につけることができます。
- ◎ レベル1～レベル3までであるため、自分の日本語レベルに合わせたコースを選ぶことができます。
- ◎ 新しい日程は、2つのページで確認することができます。

ホームページ <https://www.jice.org/tabunka/recruit/>
FACEBOOK <https://www.facebook.com/jice.tabunka/>

* 次回は、2021年7月開催予定（申込みは6月中頃を予定）

勉強できる人 べんきやう ひと
「永住者」「日本人の配偶者等」
「永住者の配偶者等」「定住者」

クラスの時間 じかん
1クラス 100時間。朝、昼、夜、
土日のクラスなどがあります。

料金 りやうきん
無料 (0円)

申込み方法 せいこ ほうほう
ハローワークで申し込みます。

ハローワークとは？
しごと しょうかい おこな
仕事の紹介を行っているところです。にほん
ご しょうだん むすか かたむ つうせく
日本語での相談が難しい方向けに、通訳がいる
ハローワークもあります。

がいこくじんめいこくじやうていじやうせいじ
「外国人就労・定着支援研修」

JICE 国際協力推進部 多文化共生課 直通
お電話でのお問い合わせ
03-6838-2723

コースのくわしい情報は、こちら！
ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、
ベトナム語、タイ語、韓国語、フランス語、
インドネシア語、ロシア語で見ることができます。



<https://www.jice.org/tabunka/course/>

せいかつ やくだ
生活お役立ちコラム
A column useful to your daily life.

よこはま
横浜には、11の区に国際
交流ラウンジがあり、地
域に住む外国人の生活や、
日本語学習のサポートを
しています。英語、中国
語など、多言語で相談す
ることができます。

よこはま す がいこくじん おうえん
横浜に住む外国人を応援！
国際交流ラウンジ

ラウンジへようこそ！
どうしましたか？



生活で知りたいことが…
にほんご べんきやう
日本語を勉強したいけど、
いい教室はないかな…

- こくさいこうりやう
国際交流ラウンジがある区
1. 青葉区 2. 保土ヶ谷区 3. 港南区 4. 港北区 5. 金沢区
6. 都筑区 7. 中区 8. 南区 9. 鶴見区 10. 泉区 11. 緑区

みな ねが
皆さんにお願いしたいこと

かぞく とも ちか ことくさいこうりやう おし
家族やお友だちに、近くの国際交流ラウンジを教えてあげ
てください。生活相談や日本語の勉強、交流イベント、ボ
ランティアの参加など、いろいろなことができます。住んで
いる区以外のラウンジも利用できます。



写真提供：(上) みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
(下) なか国際交流ラウンジ

よこはま し
横浜市にある国際交流ラウンジの一覧（日本語／英語／中国語）は、こちらから
ダウンロードできます。各ラウンジのホームページも、こちらから。
<https://yokohama-nihongo.com/search-japaneseclass>

こまったときは
よこはまし た ぶんか きやうせい
横浜市多文化共生
そうごうそうだん
総合相談センター

045-222-1209
t-info@yoke.or.jp



げつようび きんようび
月曜日～金曜日
10:00～17:00（受付は16:30まで）
だい 2 ようび
第2・第4土曜日
10:00～13:00（受付は12:30まで）

よこはま
横浜で暮らしている外国人から、11の言葉で相談を受けます。
相談は0円です。区役所などと電話をつないで、相談もできます。

つながる  よこはま

2021年6月号

にほんごコミュニケーション

Yokohama NIHONGO Support Center

<やさしい日本語版>

TOPIC

にほん しごと ひと ことば
日本で仕事をしたい人におすすめの講座

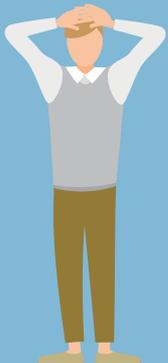
ていじゅうがいこくじん にほんご
「定住外国人向け しごとのための日本語」

せいかつ やくだ
● 生活お役立ちコラム：
こくさいこうりゅう りよう
国際交流ラウンジを利用しよう！

にほんご べんきょう
● 日本語を勉強する「どこで？」「どうやって？」：

4つのことばと場面が増えました！
つながる ひろがる にほんごでのくらし

にほんご べんきょう かた
日本語を勉強したい方は、
よ
こちらからお読みください



発行：よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE 内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

横浜市委託事業／文化庁令和3年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

